

FRONT



より安全で快適なアルミフロント商品の普及促進に向けて

～施工編～

一般社団法人 日本サッシ協会

はじめに

日本国内における竜巻を含む突風や集中豪雨の発生件数は年々増加傾向にあり、アルミフロント商品の供給においてはこれまで以上に風雨に対して注意を払う必要があります。

こうした状況の中、幸いにもアルミフロント商品においては風雨による大きな被害は発生しておりませんが、近年では万が一の災害発生時、その原因によっては商品の供給者が責任を問われる時代です。

当協会では、アルミフロント商品の耐風圧における協会基準について「耐風圧編」を、またアルミフロント商品および建物内への雨水の浸入を防ぐための共通事項として「防水処理編」のリーフレットを発行して参りました。

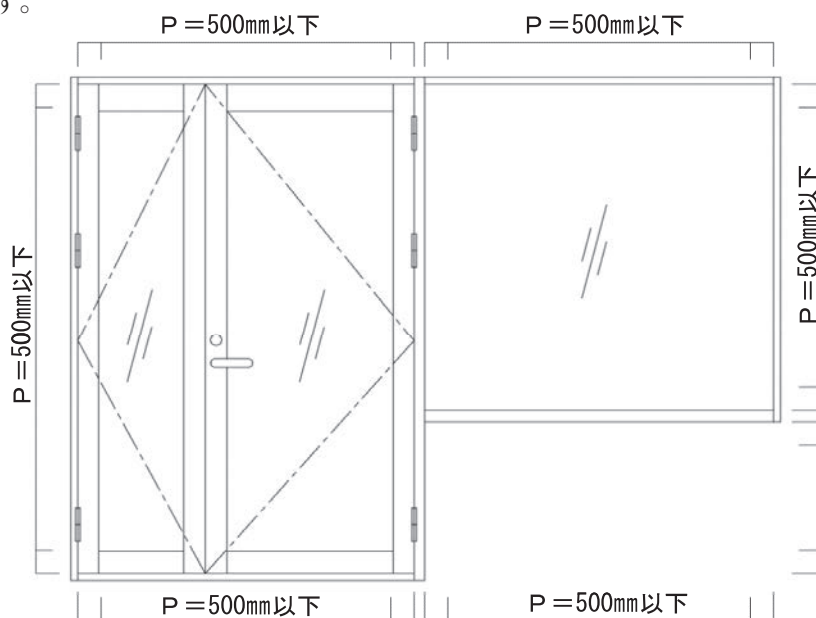
アルミフロント商品の供給者である私たちは、環境の変化に伴う風雨への備えとして、正しい商品（部材）を選択し、適正な防水処理を施す、と同様に組み立てた商品を実際に建物へと取り付けることもおろそかにしてはなりません。

そこで今回は、施工における注意点とその重要性を再認識頂きたく、本リーフレットを作成しましたのでご活用ください。

アルミフロント商品の固定（ガラス溝ねじ留め工法・アンカー溶接工法）

■ねじ・アンカーのピッチ例

アルミフロント商品を取り付ける、ねじ・アンカーの間隔は、両端から逃げた位置より500mm以下^{*}とします。



Point !

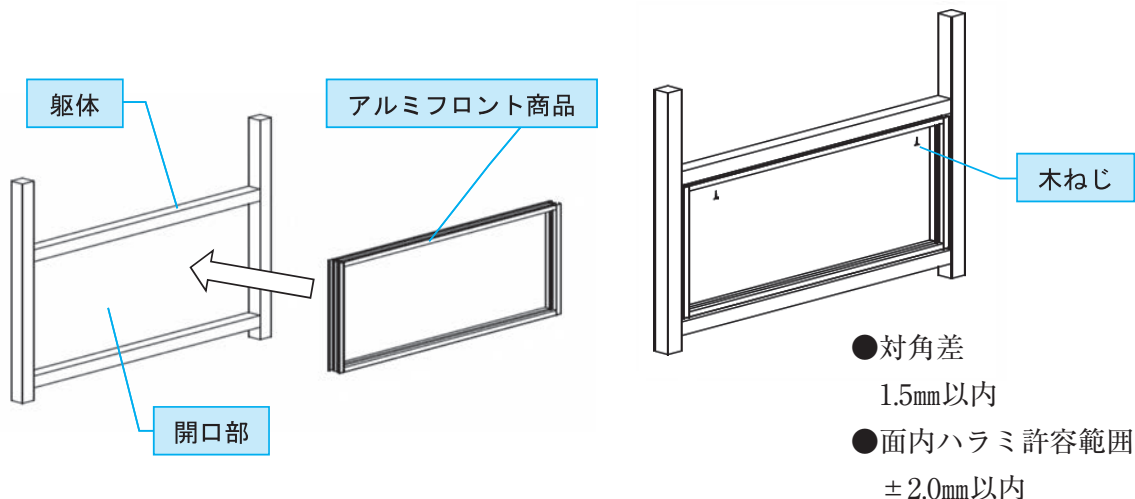
商品の機能を十分発揮できる様、アルミフロント商品と躯体は、ねじ・アンカーの間隔を守り、確実に固定してください。

^{*} 床に埋め込むステンレス製のレール・柵などはアンカーの間隔が異なる場合があります。

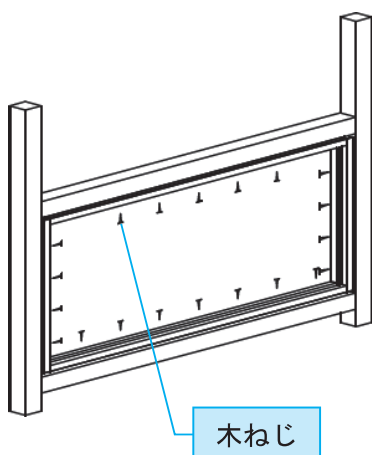
ガラス溝ねじ留め工法

■ねじ固定の手順

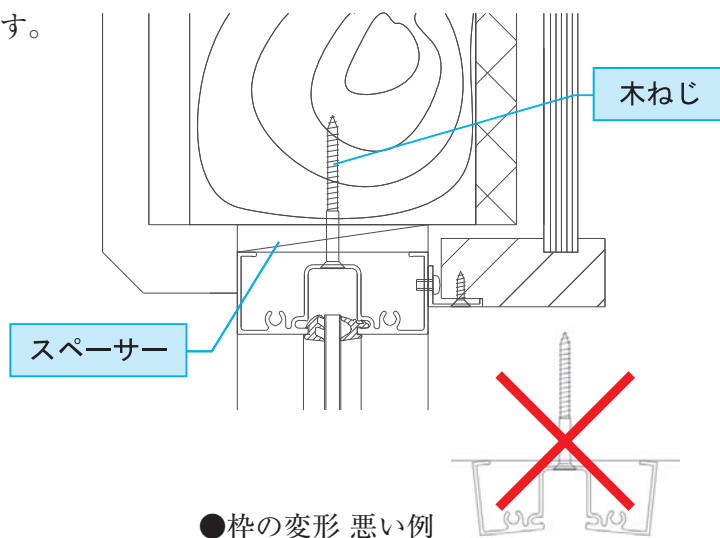
- ①アルミフロント商品を取り付ける開口部の水平・垂直・面違い、および開口部とアルミフロント商品それぞれの寸法を確認します。
- ②上枠の両端にスペーサーを入れ仮取り付けし、くさびなどを用いて対角・水平・垂直・ハラミを調整します。



- ③ねじ部には、躯体とアルミフロント商品とのスキ間にスペーサーを入れ、下枠⇒たて枠⇒上枠の順に本取り付けします。



■ガラス溝ねじ留め納まり例



Point !

1. アルミフロント商品をねじ固定する際、枠の変形がないよう注意してください。
2. 木造の建物にアルミフロント商品を取り付ける場合は、十分な長さの木ねじを使用してください。

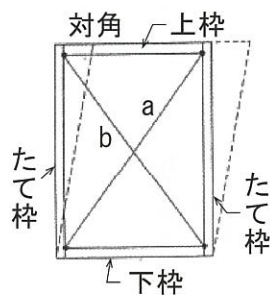
アンカー溶接工法

■アンカー固定の手順

- ①壁または床に出ている芯墨に合わせて枠芯を決めます。
- ②壁または柱に出ている陸墨により、枠の高さを決めます。
- ③水系を返り墨に合わせて枠の出入りを決めます。
- ④下げ振りにより枠の垂直を決めます。
- ⑤枠の中心、高さ、出入、垂直が決まったら、くさびで仮固定します。
- ⑥以上の状態のまま建設会社の検査を受け、アンカーを鉄筋に溶接します。
- ⑦モルタル詰めの際、枠が内側に曲がる恐れがありますので、この対策として左官業者に注意してもらいます。(モルタル詰めは建設会社の施工となります。)

■取り付けの寸法許容差

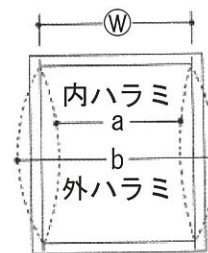
アルミフロント商品は以下の許容範囲に従って取り付けしてください。



●対角の許容範囲

$$a - b = 1.5\text{mm以内}$$

$$b - a = 1.5\text{mm以内}$$



●ハラミの許容範囲

内ハラミ許容範囲

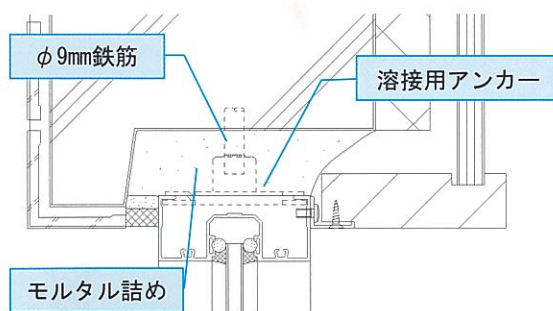
$$W - a = 2.0\text{mm以内}$$

外ハラミ許容範囲

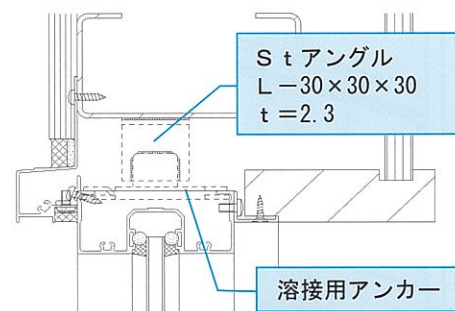
$$b - W = 2.0\text{mm以内}$$

■アンカー溶接納まり例

●湿式工法（鉄筋溶接）



●乾式工法（アングル溶接）



Point !

1. 湿式工法の溶接はφ9mm鉄筋（推奨）で連結してください。
2. 溶接時は、溶接火花等の害を防ぐための保護処置を行ってください。
3. 溶接による曲がり、そり、ひずみ等を点検し、溶接部のスラグ除去を行ってください。溶接後、モルタル詰めをしない場合は、スラグ除去後に錆止め処理を行ってください。

ご不明な点は、アルミサッシメーカー各社へご相談ください。